

[タイムテーブル] ■上映会場が2カ所に分かれていますのでご注意ください。会場内飲食不可 全会場 9:05開場 9:30開場挨拶 ※作品上映後に解説が入ります。

第1会場：1021教室(2F)

9:35 食の未来 (2004年、米国) 90分

監督:デボラ・クーンズ・ガルシア 制作:リリーフィルム
日本語版制作:NPO法人日本有機農業研究会科学部 2006年

食料システムがかつてない変化に曝されており、ほとんどの人はその影響がどれほどのものか気付いていない。農場から食卓まで世界の食に企業支配が着実に進んでいる。最大の争点は、現在最も複雑な科学である遺伝子操作で環境や生物全体に計り知れない影響を及ぼす可能性がある。そして規制のあり方、農業、消費者、健康、道德の問題を問いつ直す必要がある。これとは違う道、小規模家族農業や有機農業への関心が強くなってきている。

11:20 種子を守れ! (1993年、インド) 30分

監督:ミーラ・デワン/研究顧問ヴァンダナ・シヴァ 日本語版制作:アジア太平洋資料センター(PARC)1998年

種や苗に「知的所有権」が認められ、企業の特許料がかかる。インドで何世紀も地域の人びとに利用されてきた薬用植物ニームは、アメリカ人が特許を取って農薬として売り出した。自分たちの種と食料、命を守るため立ち上がったインドの農民女性たちの姿を描く。

12:00 休憩

12:35 死の季節よ、さらば (2006年、フィリピン) 30分

監督:ポイエッテ・リンバン 提供:アースビジョン組織委員会

大地主制が今も続き、長いスペイン植民地下でサトウキビ単作農業を押し付けられたフィリピン・ネグロス島がオーガニックアイランドと呼ばれるに至った過程。そこには土地解放を求め、農民になることを願い続けてきたサトウキビ農園労働者の長い戦いがあった。彼らは今、有機バナナのフェアトレードなどの国際的支援のもと、農民としての自立と自然との共生を取り戻す。「EARTH VISION 第15回地球環境映像祭」入賞

13:05 危険なオレンジ (2005年、タイ) 30分

監督:ティナー・アムリト・ギル 提供:アース・ビジョン組織委員会

人体に危険性がある農薬が使用されていたタイ北部の果樹園。農薬を奨励する政府の方針に抗って、農薬散布をやめ、安全な野菜を作ろうと農民たちが立ち上がる。「EARTH VISION 第15回地球環境映像祭」審査委員特別賞

13:35 あぶない野菜 (2002年、日本) 30分

制作:NPO法人アジア太平洋資料センター(PARC) 監修:大野和興・西沢江美子

安い輸入野菜は本当に安全? 輸送にかかる環境負荷は? 利潤を追求するグローバルなアグリビジネスの思惑と日本の農業の現状、私たちの食生活を考える。

14:20 The Real Dirt on Farmer John (農民ジョンの本物の土 2005年、米国) 84分

監督:タガート・シーゲル 制作:コレクティブ・アイ 日本語版制作:流山フィルムワークス

米国中西部イリノイの風変わりな農夫ジョンの自分史的物語。ジョンはピッピー世代の申し子。先祖から受け継いだ農場を大地とつながる自己表現の場(コミュニン)に変容させるが、保守的な田舎ではつまはじき。悪意に満ちた嘲笑と嫌がらせに傷つくジョン、だが彼はおいしい土の味を知っていた。ジョンの自由な表現がCSA(地域が支える農業)を広め、大規模農業に押され疲弊する地域農業を救うことに。

16:00 根の国 (1981年、日本) 20分

監督:荒井一作 制作:マルタ柑橘生産組合

「世界初土壌微生物の映像化」ほんの小指の先ほどの土の中にごくく無数の生命。堆肥となる過程で関わる植物、小動物、微生物の見事な生命連鎖。「何を殺そうというのか、人間は?」とそれを破壊する空散ヘリの農薬を問う。

16:30 農薬禍 (1967年、日本) 30分

監督:小泉修吉 制作:グループ現代

当時佐久総合病院が農民患者の診察から農薬の有機水銀の害を疑う。独自に検出に取り組み、農薬散布の危険性を巡回して農民に伝える地域医療のあり方が世論を動かす。農業生産に農薬の使用は当たり前とする現実への問題提起であり、今日的意味を持つ。

17:30 日本の公害経験～農薬その光と影 (2007年、日本) 30分

監督:河合樹香 制作:環境テレビトラスト日本委員会

日本の農薬散布の歴史的記録映像が映し出す当時の考えや影響。農薬問題に取り組む人たちの証言。

17:50 懐かしい未来:ラダックから学ぶこと(原題Ancient Futures: Learning from Ladakh 1992年、英国) 55分

監督:ジョン・ペイジ 制作:ISEC(International Society for Ecology and Culture) 日本語版制作:NPO法人 開発と未来工房

ヒマラヤの辺境ラダック(インド)の伝統的な社会に襲いかかった開発の影響を描く。私たちに「近代化」「発展」「進歩」とは何なのか、ということを根底から考えさせる。

18:45 地域から始まる未来:グローバル経済を超えて(原題Local Futures: Beyond Global Economy 1998年、英国) 25分

監督:レンダー・ワード 制作:ISEC(International Society for Ecology and Culture) 日本語版制作:NPO法人 開発と未来工房

利己主義と消費文化に偏重した人間・社会モデルとそれを推し進める経済のグローバル化ではなく、大地とのきずなを強め、地域経済とコミュニティを立て直すローカル化こそが、再生への道であることを示す。

19:20 石おじさんの蓮池 (2005年、台湾) ※作品紹介は左頁参照 24分

監督:ワン・チンリン、チュ・シャオチェン 提供:アース・ビジョン組織委員会

台北の郊外、蓮の花を栽培する石おじさんは、どうしても農薬を諦められない。蓮池に生息する稀少な台北カエルを絶滅から救うため、動物学者たちの説得は続く。「EARTH VISION 第15回地球環境映像祭」入賞

19:55 サルー!ハバナ キューバ都市農業レポート (2006年、日本) 33分

監督:井坂泰成 制作:OFFICE ISACA

200万都市が有機農業で自給…音楽、ダンス、野球だけではない、キューバの新しい顔。それは、都市農業。町のいたるところに畑を作り、野菜や果物を無農薬で栽培。市民の食糧を都市の中でまかなっている。

20:30 終了

第2会場：1087教室(8F)

9:35 根の国 (1981年、日本) ※作品紹介は左頁参照 20分

監督:荒井一作 制作:マルタ柑橘生産組合

10:05 農薬禍 (1967年、日本) ※作品紹介は左頁参照 30分

監督:小泉修吉 制作:グループ現代

11:00 自然農-川口由一の世界 1995年の記録 (1997年、日本) 153分

監督:小泉修吉 制作:グループ現代(小泉修吉)+フィオーナ【賢治の学校】(鳥山敏子)

自然農の世界=自然界、生命界を損ねず、汚さず、壊さず、殺さず…して持続可能な栽培農業。「必要なものは自然裏に過不足なく用意され続けてまいります、その基本は、田畑の表面を耕さないことです。…」

13:45 自然農・有機生産者との交流会 60分

自然農実践農家や有機農家の皆さんから、それぞれの農法やその実際を紹介していただきます。有機農業、自然農についての疑問にもお答えします。

15:05 種子を守れ! (1993年、インド) ※作品紹介は左頁参照 30分

監督:ミーラ・デワン/研究顧問ヴァンダナ・シヴァ 日本語版制作:アジア太平洋資料センター(PARC)1998年

15:35 死の季節よ、さらば (2006年、フィリピン) ※作品紹介は左頁参照 30分

監督:ポイエッテ・リンバン 提供:アースビジョン組織委員会
「EARTH VISION 第15回地球環境映像祭」入賞

16:05 危険なオレンジ (2005年、タイ) ※作品紹介は左頁参照 30分

監督:ティナー・アムリト・ギル 提供:アース・ビジョン組織委員会

16:35 終了